

佐渡生きものの語り 作品集 2017





朱鷺と暮らす島 生物多様性佐渡戦略 キャッチコピー

佐渡でふれあういのちのつながり

人とトキが暮らす島を孫の世代へ

みなさんは「生物多様性」という言葉を知っていますか？
生物多様性とは「生きものたちの豊かな個性とつながり」のことです。

私たち人間は、地球という大きな生態系の一員であり、私たちの暮らしは、様々な生きものが関わり合い、得られる恵みによって支えられています。

佐渡の豊かな自然や文化を保全・再生し、佐渡で育まれた多くの生きものと私たちが共生する環境を後世に渡って継承していくために、佐渡市では、平成24年6月に「トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略」が創られました。

佐渡の生物多様性を「知る・守る・使う」ことで、自分たちの子供や孫の代まで繋いでいく取り組みです。

「佐渡生きものの語り」について

佐渡では、「トキが餌に困らないように」を合言葉に、田んぼに生きものが増える工夫をした米づくりに取り組んでいます。これが「朱鷺と暮らす郷」認証米です。

認証米を始めてからは、田んぼに稲の様子を見に行ったとき、生きものにも目が行くようになったとおっしゃる農家さんは、「前より生きものが増えてきたんだよね」と嬉しそうな様子でした。

認証米農家は毎年2回、自分の田んぼの生きもの調査をして、記録を残しています。そしてもう一つ、より多くの方たちに田んぼで暮らす生きものを知ってもらうために、川柳や写真、イラストなど自由な表現方法で、佐渡で見つけた生きものたちのことを語る「佐渡生きものの語り」の取り組みを続けています。

ここに作品を寄せてくれるのは農家さんだけでなく、地元の学生さんや佐渡に来てくれた観光客の方、それから修学旅行の生徒さんなど様々です。皆さんが、トキがいて、色々な生きものがいる、この佐渡のすばらしさを表現してくださいました。

さあ、「佐渡生きものの語り2017」を、どうぞご覧ください！



口ばしで

田んぼの良し悪し

見分けられ

川上 澄子

(佐渡市)

【選者より】

生産履歴などなくても、安心・安全なエサを見分けられるトキ。食味鑑定などなくとも美味しいお米を作りたいものです。



準グランプリ作品

腰のぼし

トキはいないか

空を見る

本間 武男

(佐渡市)





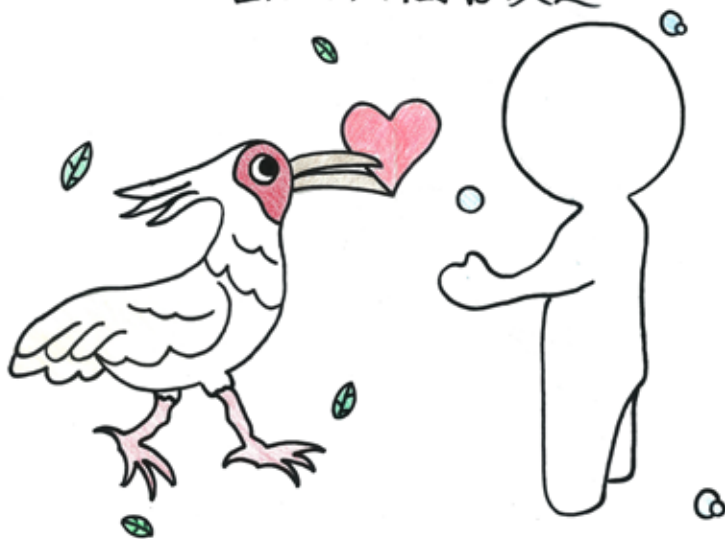
臼木 佑実 (佐渡保育専門学校)

【選者より】

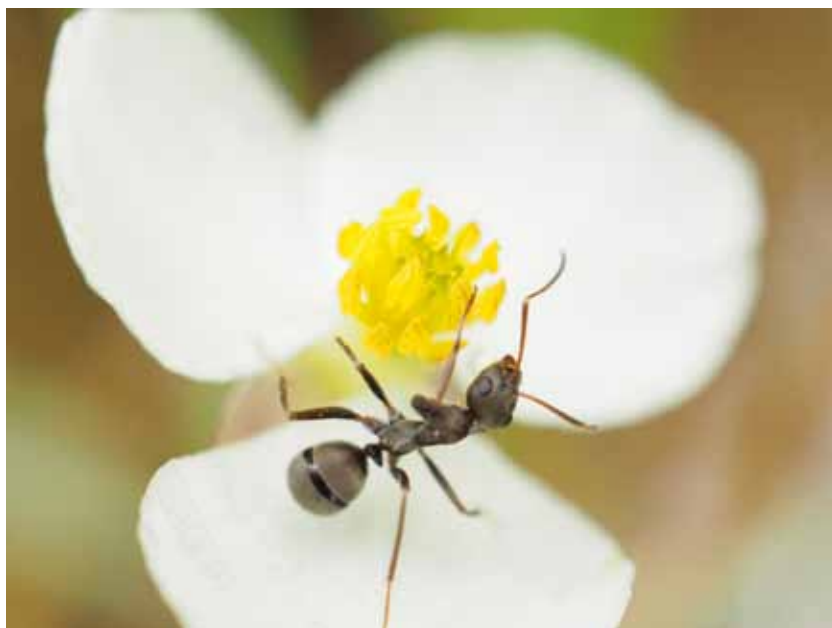
いきものが同じ大きさを手で繋いで描かれているところにいのちは平等でつながっているというメッセージが伝わってきました。

この絵のように命が繋がり、溢れる佐渡の田んぼを大事にしていきたいですね。

自然と人間は友達



高野 ^{しゅか} 朱夏 (新潟大学教育学部 附属新潟小学校)



「つながる命」 服部 謙次（佐渡市）

農家を苦しめる田んぼの雑草オモダカ。しかし、その花は意外ときれいです。次々に訪れる虫たちに花粉を運んでもらい、ひそかにそしてしたたかに命をつないでいます。田んぼをじっと見つめると、普段は気づかない小さい生きものたちのドラマが繰り返されていることを発見できます。



「田んぼのゴジラ」

服部 謙次（佐渡市）

誰かが言った。サドガエルはイボだらけでゴジラみたい、気持ち悪いと。だけど夜の田んぼでみかけたゴジラは、水面からかわいらしい顔を持ち上げ、つぶらな瞳で見つめる愛嬌者であった。

「生きものはただでは増えぬ
お母さん辛いです……」

齋藤 真一郎（佐渡市）



川柳・短歌部門 ノミネート作品

※ノミネート作品とは

選考委員により全応募作品から選ばれた作品です。そして、佐渡ふれあい
アッセまつり来場者からの投票でグランプリが選ばれました。

米作り 供に働く おまえ（生物）おれ

臼杵 博道（佐渡市）

おたまさん もうすぐ中干し どこへ行く

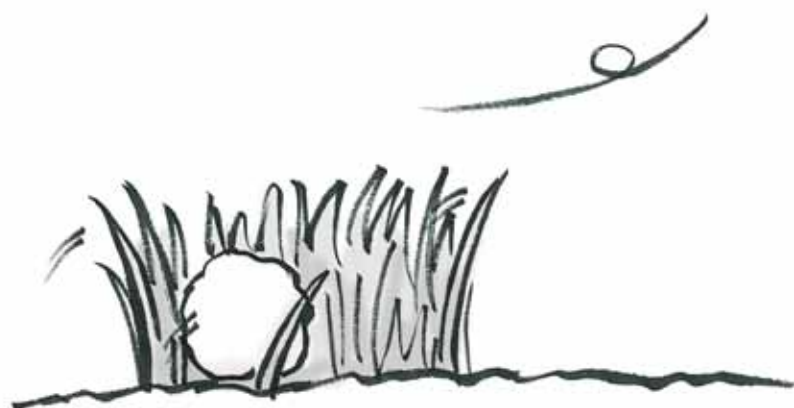
本間 武男（佐渡市）

残り苗 モリアオガエルが ゆりかごに

川上 澄子（佐渡市）

名を知らず 悪戦苦闘の 調査かな

菊池 義行（佐渡市）



本郷に 餌採る姿 睦まじく

飛び立つ空に 朱翼はえて

計良 孝晴 (佐渡市)

ガムシ抱く気泡は きらめく小宇宙

佐渡に浮かびて 我もいきもの

大江 亜希子 (富山市)

トキの島 自然を愛でる 心と手

椎 悦子 (佐渡保育専門学校)

田んぼにて 腰をかがめて

草むしり 秋の豊作祈りつつ

長田 靖子 (佐渡保育専門学校)



川柳・短歌部門 応募作品

秋まぢか 実る田んぼに トンボ集まる

田中 政一

あの草苗 生物たちに 守られて

供に辞宜する 刈り取り朝

臼杵 博道

サギかなあ 口ばし赤い トキだった

市川 守

引き継いだ 田んぼの管理 大変だ

市川 守

あなたたち よく頑張ったネ あの熱風

もうだいじょうぶだよ 穂を出して

北見 好信

周りにいる生きもの
を調べてみるの
じゃー！



ドクター イキモン

生物多様性 ポイント①

「佐渡市生きもの調査の日」

佐渡市では、佐渡の生物多様性豊かな環境を、市民一人ひとりが理解するために、平成22年6月に「佐渡市生きもの調査の日」を宣言し、毎年6月第2日曜日と8月第1日曜日に、全島で田んぼの生きもの調査を行っています。

農家だけでなく、子ども達や市民も参加し、佐渡の環境を支える「小さな命」に目を向ける取り組みです。

ぬかる田に 足をとられて 虫さがす

本間 武男

汗をふき 稲をかきわけ 虫さがす

本間 武男

模様かえ 存在示す サドガエル

佐々木 勲

人の手で 生きものふえる 田んぼかな

計良 裕紀夫

生きものも 人もよろぶ 田園だ

計良 裕紀夫

首立てて トキの護衛か サギの群れ

川上 澄子

スマホ手に 生きもの調査 孫達は

田辺 恵一



佐渡の田は トキや生きもの 増えてると

おいしいお米が 故郷自慢

田辺 恵一

植田 苗 トキ ふんじゃった ??????

早川 義

生き物の 人生狂わす 除草剤

矢田 格

あさもやの 田んぼの畦で トキがなく

池野 茂晴

夕暮れの 国仲平野に トキが舞う

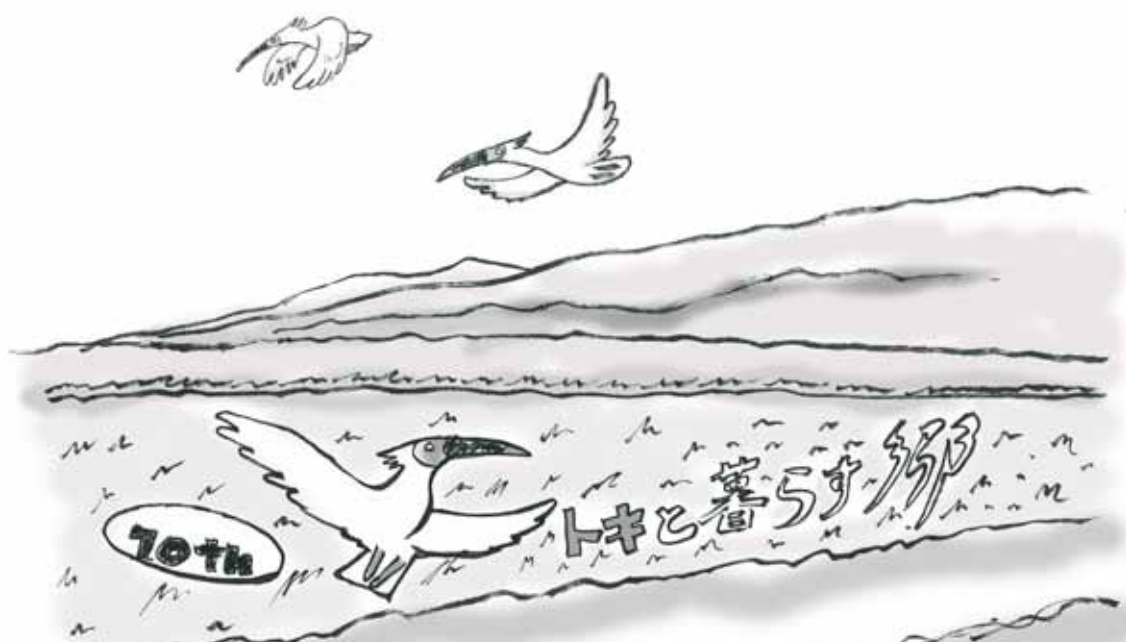
池野 茂晴

江の設置 生きものの育ち トキが舞う

飯田 修

トキアート われと同じと トキが舞う

飯田 修



「何かいた」 孫の一声 ひびきわたり

菊地 浩子

暑さのせい 動き少ない 人も生き物も

菊地 浩子

暑い夏 少ないエサを 他の鳥と

仲良く 分け合う トキ3羽

斉藤 孝夫

草刈りで トキに涼し 時忘れ

須田 秀行

ついでむトキ ウシガエル一声 飛び立ち

浅木 達夫

はぐれトキ 寝ぐらはいずこ あかね雲

浅木 達夫

生き物が いるかいるかと 本州へ

恩田 昭夫

生物多様性 ポイント②

「^ジ^ア^スGIAHS（世界農業遺産）」

後世に残すべき生物多様性を保全している農業上の土地の使い方や景観について、FAO（国連食糧農業機関）が認定するものです。

佐渡市は、生きものを育む農法や、各農村集落に継承されている伝統芸能などが評価され、平成23年に石川県能登地域と共に日本で初めて認定されました。

重要じゃぞ！



生き物を トキが取るより サギが取る

恩田 昭夫

生きもの さがねて歩く 人とトキ

恩田 昭夫

来年は もっと増やそう 生きものを

馬川 哲雄

少しずつ 戻ってきたよ 生きものが

馬川 哲雄

我が田んぼ 虫も多けりゃ 草もまた！

川上 輝雄

斑点米 ふたつみつに 踊らされ

鈴木 由紀夫

カメムシと 分け合う気持ち なぜなれぬ

鈴木 由紀夫

トキよりも ホタル探す 難しさ

高柳 康久

佐渡のお米は
美味しいのぉ



生物多様性 ポイント③

「朱鷺と暮らす郷認証米」

佐渡では、農薬や化学肥料を
少なくし、環境に配慮した米作
りをしています。中でも、朱鷺
と暮らす郷認証米は、田んぼと
その周囲に生息する生きものの
環境を作り出す「生きものを育
む農法」により栽培されている
お米です。



生きものも 人の手により 変化する

高柳 康久

避難指示 トキの親子は どこへやら

高柳 康久

蛙の子 そのけそのけ ミゾ切り機が通る

小林 博

出穂して 冷たい水が欲しい 田のプール

石塚 猛

猫の手と サギの足も 借りたい

菊池 南洋司

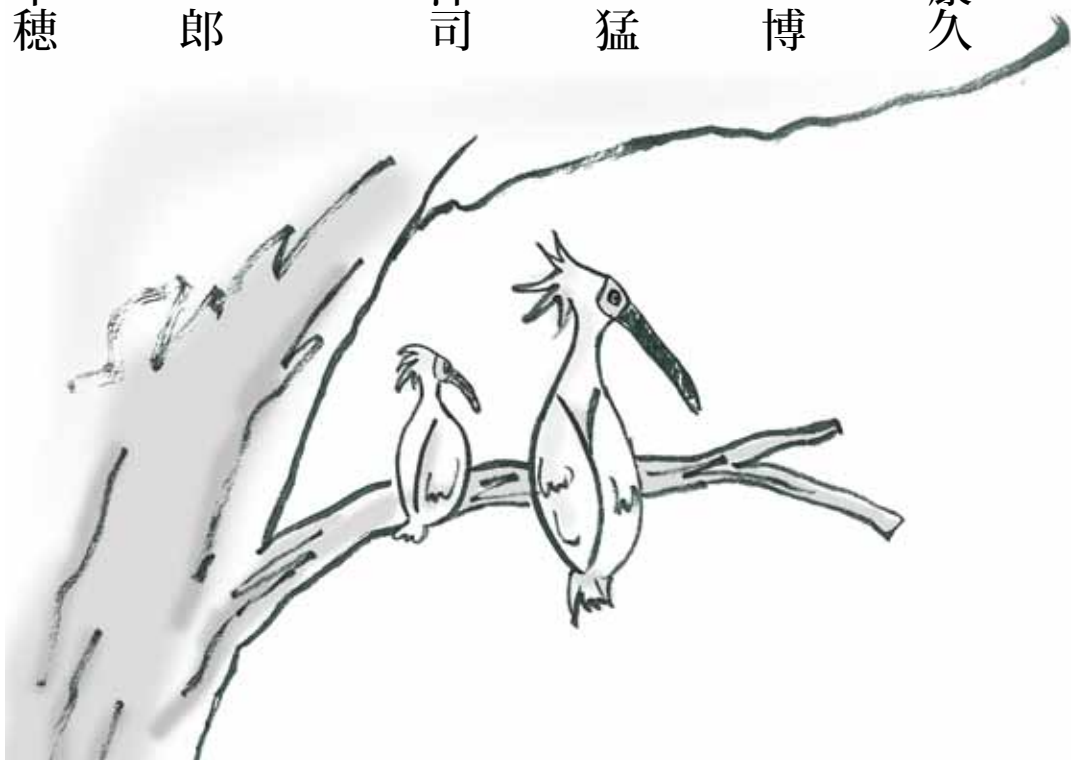
野に山に 朱鷺色映える 我が島よ

皆で続けよう 生きもの育む農法を

小濱 加一郎

秋になり お米の色は かがやくよ

伊東 幸穂



見上げれば 羽ばたく希望 笑顔かな

椎 悦子

四季の味 田んぼも味わう トキとの共生

椎 悦子

美味しいな 生物たちとの稲づくり

佐渡のお米は天下取り

椎 悦子

泥の中 ドジョウ追いかけ 無我夢中

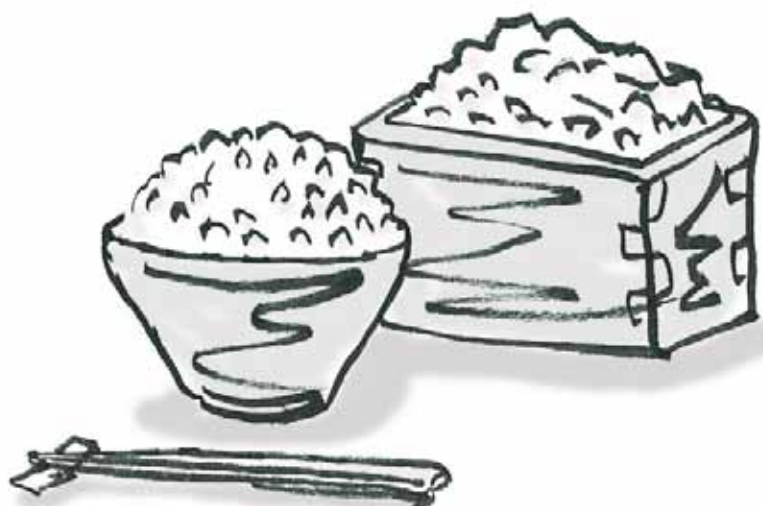
ヒルの攻撃 足に受け

長田 靖子

ウシガエル 鳴き声聞こえる池の中

姿見えぬが 風格感じ

長田 靖子



自由形式 応募作品

「トキ石アート」 伊東 幸穂（千葉県）



【製作者コメント】

佐渡で拾った石の中に平らでなにか描くのに丁度よい石があったので、佐渡で拾ったので、佐渡に関係があるものを描こうと思ってトキを描きました。

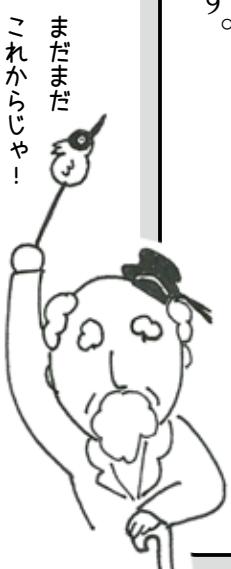
生物多様性ポイント④

「トキの野生復帰」

昭和56年、野生トキ5羽の一斉捕獲から27年が経った平成20年9月、佐渡の空にトキが再び飛び立ちました。

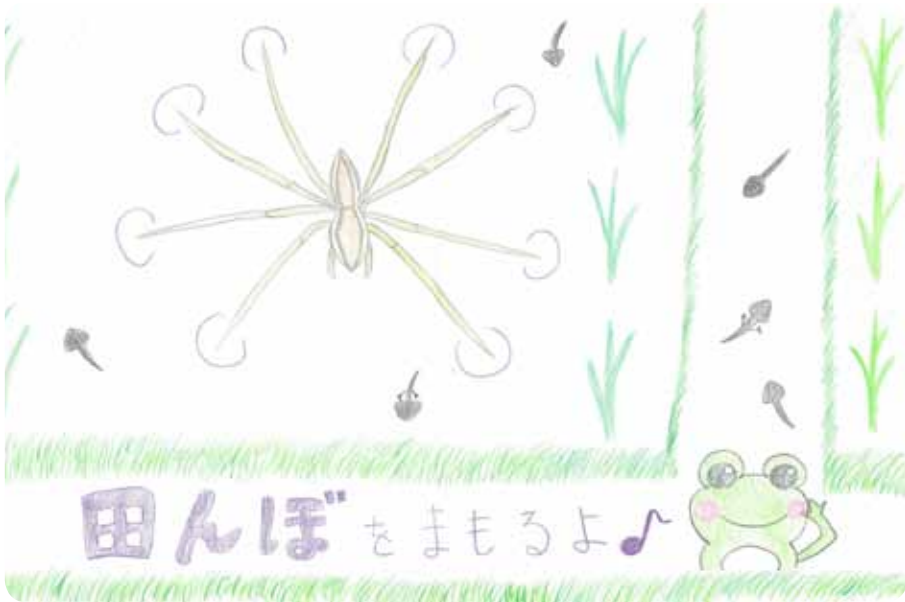
平成24年には放鳥したトキからヒナが誕生、平成28年には野生生まれ同士のペアから純野生のヒナが誕生しました。

毎年2回の放鳥と、野生下で生まれたトキを合わせ、平成30年3月現在、野生下には約300羽のトキが生息しています。



まだまだ
これからじゃ！

山本 清菜



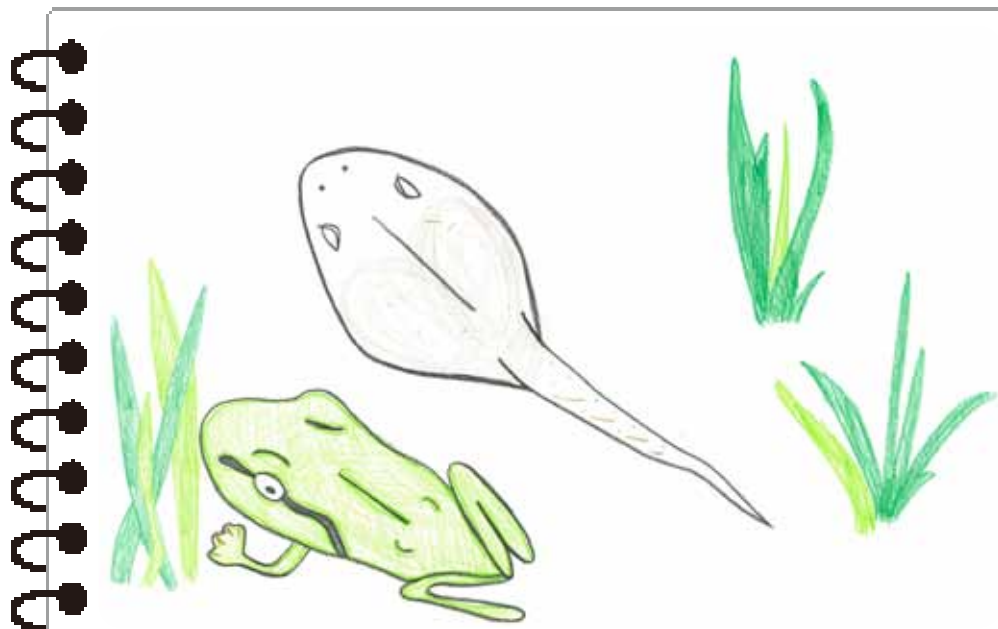
大道 愛音



土屋 一磨



後藤 彩音

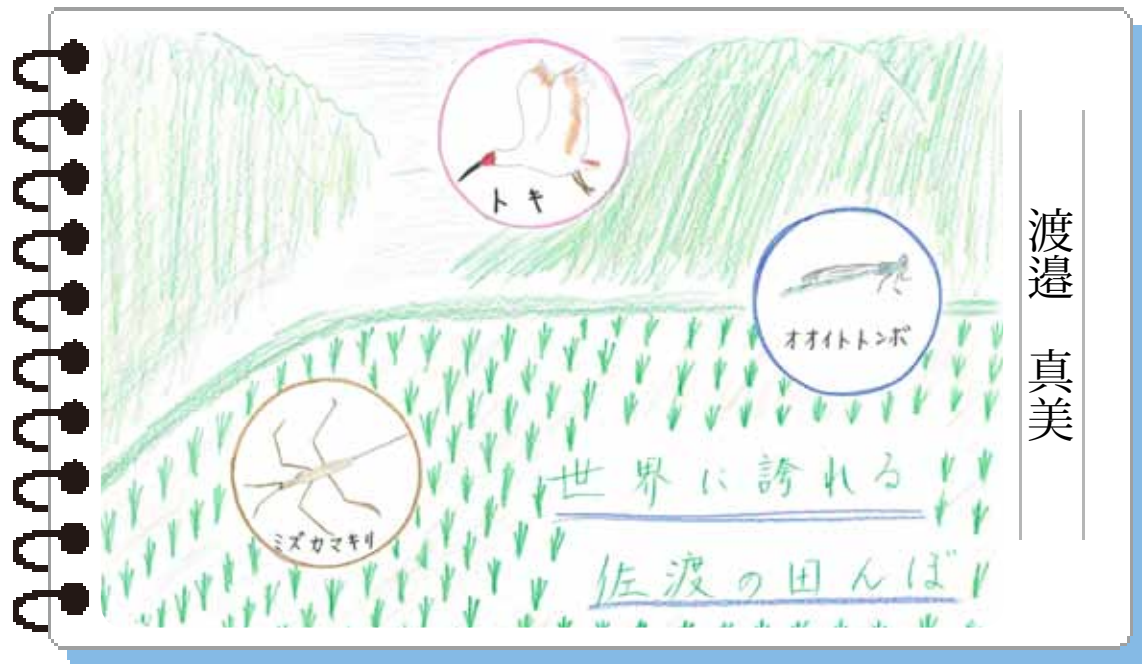


山本 麻由



渡部 雄貴





渡邊 真美



笠井 彩唯美



関口 淳子

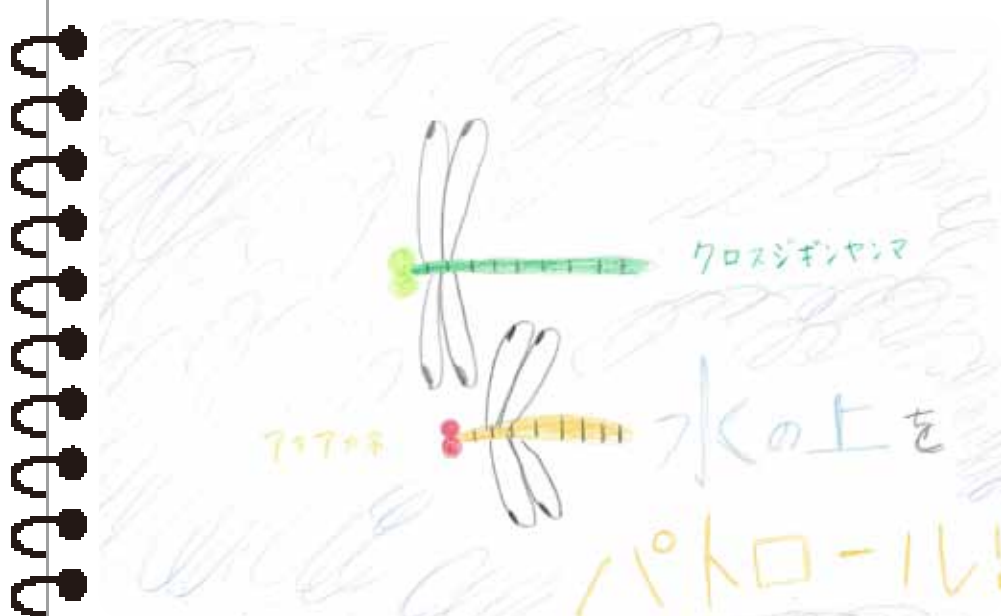


おいしい
お米
ありがとう。

一色 桃香



川上 紗映



綺麗な水を守ろう!!



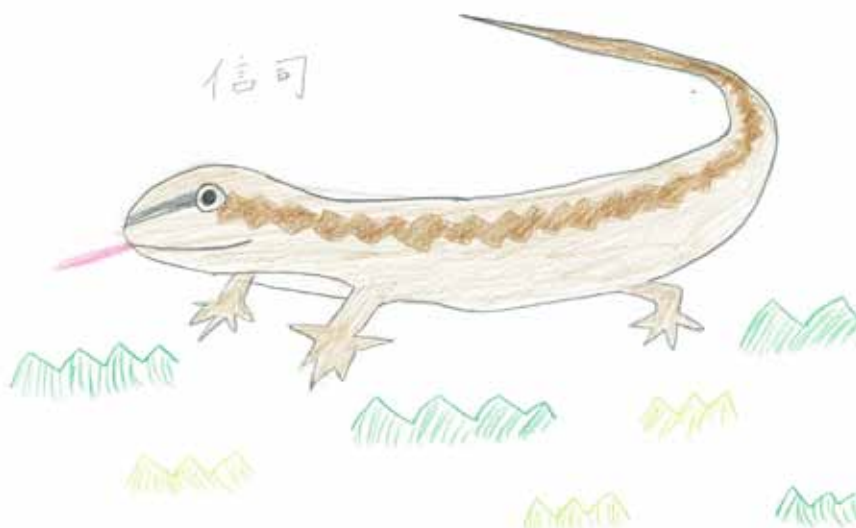
菊地 奈保

お掃除屋さん



向山 陽香

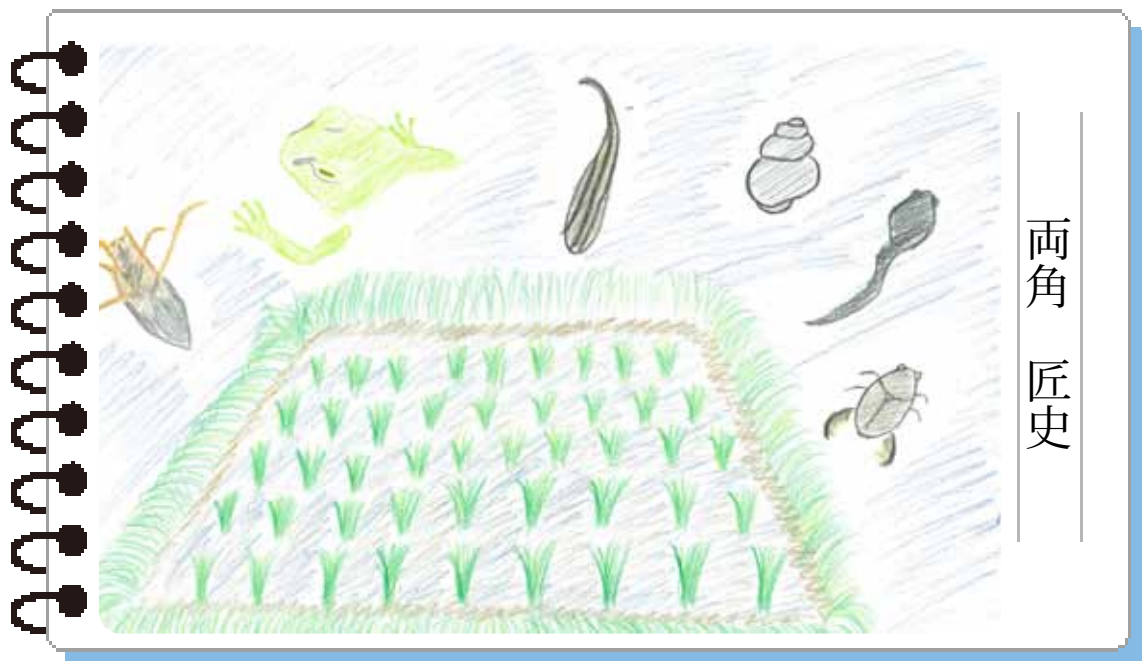
信司



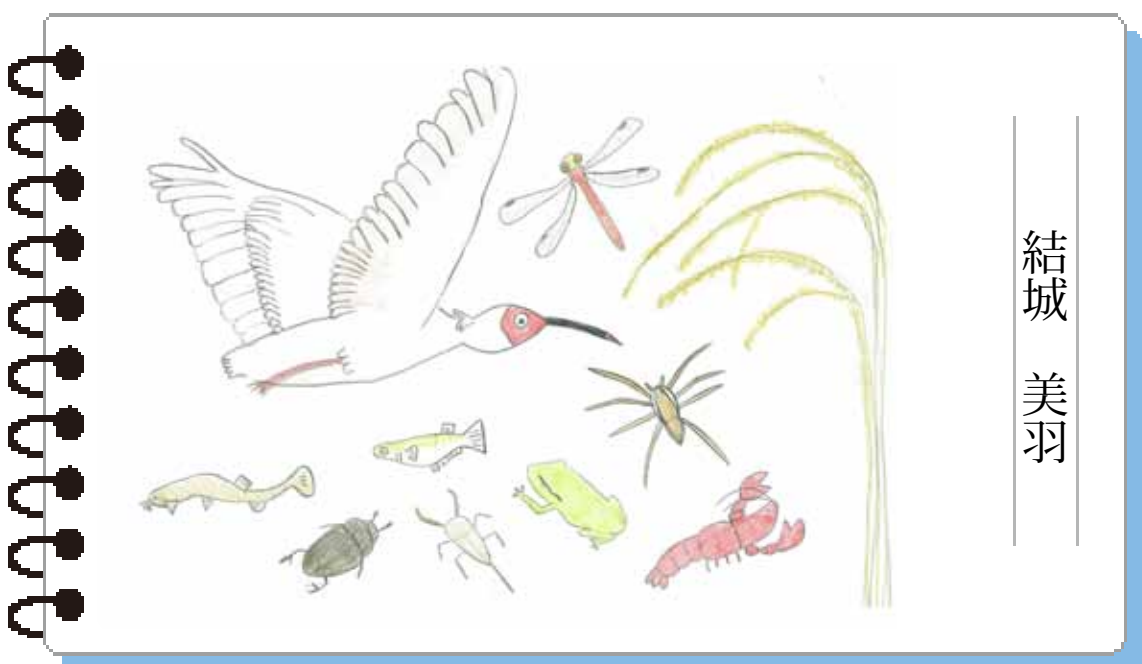
池野 楓華



木村 蓮



両角 匠史

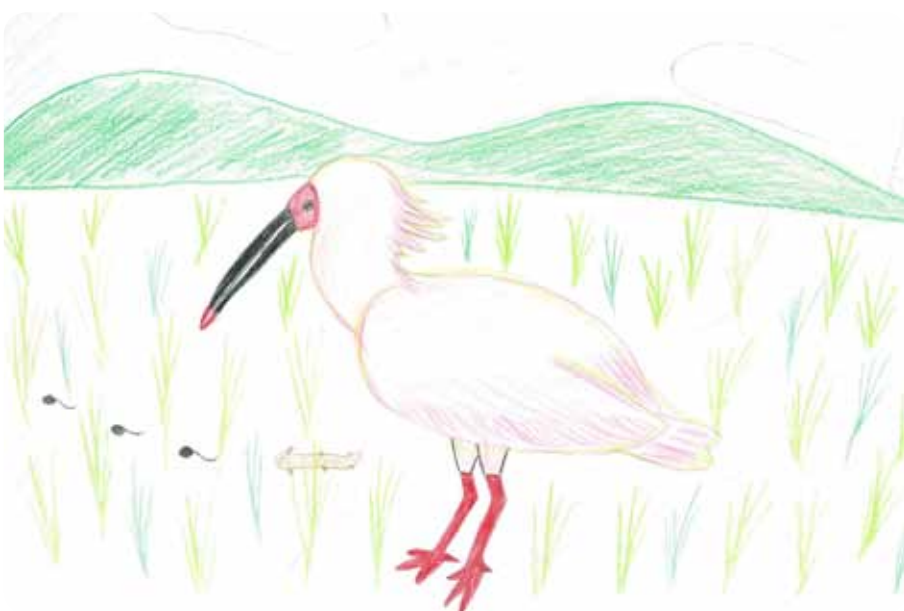


結城 美羽

松浦 里菜



水野 小百合



齋藤 雪乃



伊藤 幸穂（千葉県）



佐渡島で体験学習

佐渡島をフィールドとした、大学生の研究や実習、ボランティア活動、また修学旅行生や島内の学生向けの体験学習、環境学習も積極的に行われています。



田んぼやその周辺に住む生きものを調べる環境学習

佐渡生きもの語り研究所では、佐渡の田んぼを中心とした環境学習・ボランティア等の受け入れを行っています。

詳しくは巻末のお問合せ先までご連絡下さい。





「佐渡Kids生きもの調査隊」は、佐渡島内の
小学3年生から中学生を対象に、米づくりから米売
りまでの一連を体験し、お米のことや生きもののこ
と、そして田んぼと生きものの繋がりについて学ん
でいます。

また、他地域の子供たちとの交流を通して、その
土地の文化や田んぼ、生きものについて学び、地元
である佐渡のことを考える活動を行っています。



Facebook で活動公開中！



佐渡 Kids 生きもの調査隊

検索



地産地消フェスタ米売り体験



大きな声でお客さん呼び込む Kids



PRする道具も自分たちで作成



好評につき完売！ありがとうございました！

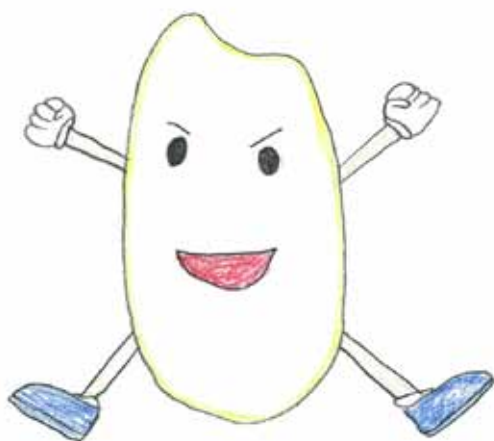
Kidsによる米づくりの活動は、お米を育てるだけでなく、販売まで行います。1年間大事に育て、収穫したお米を、佐渡市地産地消フェスタで販売体験を行いました。

どのように宣伝したら来場したお客さんに買ってもらえるかなど自分たちで考え、米づくりレポートを掲載した「田んぼ日記」の配布や看板の制作、お店の飾りつけまでKids自らが考えて行いました。販売する米袋には、Kidsが描いた手書きのイラストが貼られています。Kids米は人気で、終了時刻を待たずして完売すると、自分たちのお米を販売した達成感でみんな大喜びでした。

宮川 優奈



宮川 優奈



Kids
米

末武 佑理



無農薬だから
生き物が
たくさん！



佐藤
栞愛瑠



齋藤
啓太

キッズ米

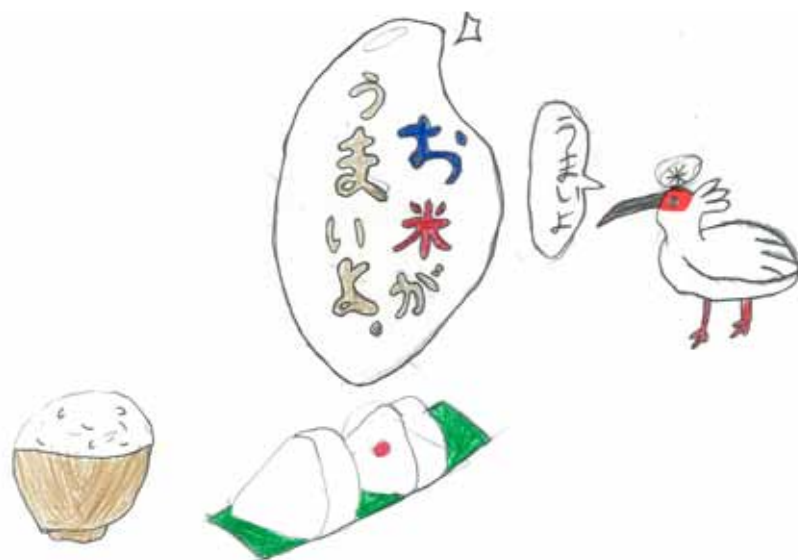


高橋
朋輝

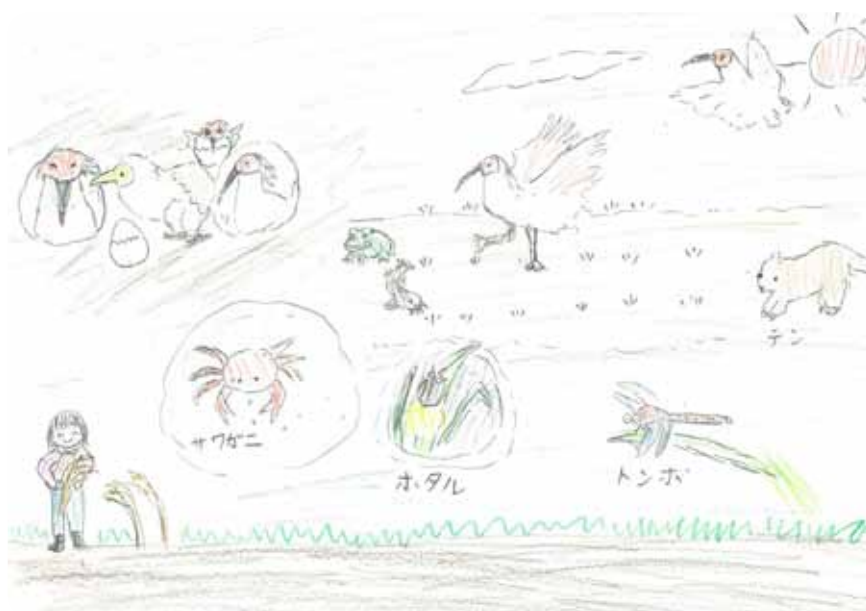
三浦 滉太



田宮 一ノ進



鹿取 悠





佐藤 青空



田村 莉愛



佐藤 碧琉

佐藤 むうる



伊藤 蒼



日比谷 建瑠



佐渡地域おこし協力隊 潟上地区担当

青木 秀輔



人キと暮らす郷 10作目

フォト部門 その2



お猿さんのお面じゃありませんヨ！！
はじめまして ハナグモ です（笑）

小濱 加一郎（佐渡市）



生物多様性佐渡戦略

【基本理念】

生物多様性が育む佐渡の豊かな自然と暮らしを保全・再生する

佐渡で暮らす私たちと多くの生きものが共生する環境は、長きに渡り培われてきた豊かな自然、歴史、文化について市民一人ひとりが「知る・守る・使う」ことによって、保全・再生されるものです。

この「知る・守る・使う」に対応した3つの基本目標を設定し、積極的に推進する施策を定めています。

知る

「佐渡の生物多様性豊かな環境を市民一人ひとりが理解する」

私たちの健康で豊かな生活は、自然から多くの恩恵を受けている事を自覚することが大切です。将来に渡って佐渡の生物多様性豊かな環境を保全・再生していくためには、まず、私たち一人ひとりが佐渡の環境について十分理解し、後生に渡って継承して行く必要があります。

佐渡市の取組み

- ・生物多様性に対する市民理解の促進
- ・組織・団体間のネットワークの構築
- ・企業CSR活動の参画促進
- ・大学等との連携による人材育成の促進

自分が出来る範囲で
やってみるのじゃ！



守る

「生物多様性の損失を食い止め佐渡本来の生態系を回復する」

私たちは生活の安全性や効率化のもとに様々な開発を進めてきました。結果、佐渡各地の自然環境に依存し生息していた在来の生物は住みかを失い、その個体数は減少してきています。今後、生物との共生を図る整備を進めなくてはなりません。

また、佐渡には本来生息・生育していなかった生物が持ち込まれ、佐渡固有の生物相と生態系に対する大きな脅威となっています。深刻化する前に、適切な対策を実施し、生物多様性の損失を食い止めなければいけません。

佐渡市の取り組み

- ・在来種の保全・保護
- ・生態系に悪影響を及ぼす生物への対応強化
- ・多用な生物が生息・生育できる環境の保全・再生

使う

「生物多様性の恵みを持続的に享受する地域社会を構築する」

佐渡はG I H A S（世界農業遺産）に認定されました。佐渡の農村文化や伝統芸能、里地・里山の美しい自然景観を次世代へ継承していくためには、持続発展的な農業農村の活性化が最重要課題となっています。

佐渡で育まれる生物多様性の恵みを持続的に享受しながら、活力ある経済・社会活動を実施し、若者が定住・定着できる社会づくりを行っていくことが現代の私たちに求められています。

佐渡市の取り組み

- ・環境と経済が好循環する産業の育成
- ・環境負荷の少ない循環型社会づくりの促進

後記

2017年、佐渡の田んぼで新たな取り組みが始まりました。田んぼアートです。普段、田んぼに足を運ばない人たちにも田んぼに親しんでもらいたい、そんな気持ちで1枚の田んぼに、トキが佐渡の最高峰である金北山の方角に向かって飛ぶ姿を描きました。認証米に取り組んで10作目を表す「10th」と「朱鷺と暮らす郷」という文字も、赤米と白米でくつきりと浮かび上がりました。

それに加えて「草刈りアート」。田んぼアートの圃場の反対側にある土手の斜面に、「トキ 生きものとそだつお米」の文字を草刈りで浮き上がらせました。遠くからでも田んぼアートの場所がわかるようにという工夫ですが、佐渡の田んぼが誇る、緑のあぜ道をPRするにもってこいの工夫でした。



「朱鷺と暮らす郷認証米 10 作記念 トキ田んぼアート」

除草剤を使わず、草刈りによって守られている田んぼの畦は、昆虫やミミズなどの生きものの棲みかです。そして、夏にはトキの大切な餌場になっています。

今年は、川柳・短歌部門に56作品、イラスト部門に24作品、フォト部門に4作品、他にもエッセイやストーンアートなどの作品も寄せられました。トキや生きものを愛でる作品に加え、農家の苦労などを

詠んだ作品もあり、今現在の農家の想いを伝える作品集になっています。

いずれ劣らぬ秀作ぞろいですが、7名の選考委員によりノミネート作品が選出され、11月に開催された佐渡ふれあいアッセまつり、佐渡市環境フェア来場者の方々の人気投票によって、最終的にグランプリ作品と準グランプリ作品が決まりました。

受賞された皆様、おめでとうございます。さらには、作品をお寄せくださった皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。

一般社団法人 佐渡生きもの語り研究所

理事長 仲川 純子



新たな認証要件となった除草剤を使わない草刈り

佐渡生きものの語り作品集 2017

発行日

2018年3月

発行

佐渡市・朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会

編集

一般社団法人 佐渡生きものの語り研究所

イラスト

Kawai Kanako

「トキと暮らす島^(表紙・挿絵) 生物多様性佐渡戦略^(ドクタイイキモン)」より

写真

(一社) 佐渡生きものの語り研究所

印刷・製本

新穂印刷

お問合せ先

T952-0103

新潟県佐渡市新穂潟上1701-1 トキ交流会館2階

TEL 0259-22-2658 (FAX兼)

<http://sado-ikimonoken.jp>

E-mail: ikimon@sado-ikimonoken.jp

ノミネット選考委員(順序不同・敬称略)

大石 惣一郎 佐渡棚田協議会 会長

若松 徹 環境省 佐渡自然保護官事務所 首席保護官

本間 皓 JA羽茂 組合長

金子 聡 佐渡市役所 農業政策課 課長

青木 秀輔 佐渡市地域おこし協力隊 (潟上地区担当)

本多 治雄 朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会 会長

大井 克巳 (一社) 佐渡生きものの語り研究所 理事

人気投票

佐渡ふれあいアツセまつり来場者様 (2017年11月3日)

佐渡市環境フェア2017 (2017年11月5日)

